

2022年8月10日  
日揮ホールディングス株式会社

2022年度第1四半期  
テレフォンカンファレンスにおける質疑応答（2022年8月10日開催）

※テレフォンカンファレンス開催日（2022年8月10日）時点の情報に基づく内容です。

1. 2022年度第1四半期決算および通期業績見通しの上方修正に関して

質問	回答
第1四半期（2022年4月～6月）の粗利益率が13.7%と通期予想（期初発表9.0%）から上振れているが、主な要因を教えてください。	期初の業績予想で使用した1米ドル＝123円に対し、6月末のドル円の為替レートは136.68円と円安になったことによって、売上高で約260億円、粗利益で50億円弱それぞれ押し上げ効果があった。 このほか、総合エンジニアリング事業において、建設工事が終盤にある案件での採算改善や、工事が終了した案件で協力会社との精算交渉で当社負担が見込みよりも少なく済んだ案件があったことなどもプラスに作用した。加えて、相対的に利益率の高い機能材製造事業の着実な売上進捗に対し、総合エンジニアリングの出足が遅かったことによるセグメント間のバランスが影響したことも粗利益率の押し上げ要因となった。
為替の影響を除くと、総合エンジニアリング事業の売上高は通期予想に対して進捗が低いように見えるが、どのような理由があるか教えてください。	年度後半にかけて現在遂行中の大型案件の工事進捗が伸びていくことのほか、今年度受注する案件においても、今年度後半の売上計上を期待している。

<p>なぜ通期業績予想も上方修正したのか？</p>	<p>第1四半期の事業の進捗状況を踏まえ、ドル円の想定レート（前回1米ドル=123円）を1米ドル=130円に変更して業績予想を行った結果の数字であり、修正することが適切と判断した。</p>
<p>国内外で売上・利益に寄与したプロジェクトとその状況を具体的に教えて欲しい。</p>	<p>売上高が一番大きい案件は、カナダで遂行中のLNGカナダプロジェクトであり、現在、中国やイタリアで建設したモジュールの出荷が、建設現場であるカナダに向けて順次始まっており、建設現場では到着したモジュールの据付工事が順調に進んでいる。</p> <p>次いでイラク・バスラ製油所近代化プロジェクトであり、詳細設計、資機材調達が進み、主要機器の発注は概ね完了した。建設現場では造成工事・仮設工事が順調に進んでいる。</p> <p>モザンビーク向けFLNGプロジェクトも、顧客への引き渡しに向けた最終ステージに入っており、試運転が完了し性能確認運転に入るなど順調に進行している。</p> <p>国内では、メガソーラー建設プロジェクトやバイオマス発電建設プロジェクトの建設工事が順調に進んでいる。</p>
<p>資機材価格等が急激に上昇するなかで、5月に発表した通期業績予想では、価格高騰リスクを織り込んでいたと思うが、3カ月が経過して価格高騰の影響はどう変化しているか。</p>	<p>第1四半期決算において、新たにリスク・コンティンジェンシーを増額するなどはしておらず、現時点では期初に想定したリスクから大きな変化はない。</p>
<p>基本的な質問となるが、ドル円の為替レートが円安になるとなぜ売上高や利益面で影響があるのか。</p>	<p>総合エンジニアリング事業において、海外で契約したプロジェクトは、米ドル建ての契約があり、為替レートの変動によって売上高や粗利益が増減する。営業外収益段階においては、外貨建ての債権・債務の評価替えによって円安になれば差益、円高になれば差損が出る。</p>

<p>通期業績予想において、当期純利益も上方修正したことによって、当社の株主還元方針である配当性向 30%に従って配当予想も増配に修正したと理解しているが、今後円高が進行し当期純利益が減少した場合、配当も機械的に減額する可能性はあるか。</p>	<p>還元方針に照らせば、配当性向 30%に従って増減することが原則となる。ただし、今回の修正後の予想値は今後多少円高に振れたとしても達成可能であり、現時点では修正後の 1 株当たり配当金額は守れると考えている。</p>
--	--

## 2. 受注・マーケット環境

<p>5 月に受注したサウジアラビア向け原油・ガス分離設備建設プロジェクトでは一部海外子会社が受注した分もあったと記憶しているが、第 1 四半期受注実績には海外子会社受注分も計上されているのか。</p>	<p>第 1 四半期受注実績には、サウジアラビア向け原油・ガス分離設備建設プロジェクトの海外子会社分も含めて計上している。</p>
<p>原油価格がこれまでの 1 バレル 100 ドル近辺から、現在では 90 ドル近辺で推移しているが、LNG 案件を含め、当社の受注環境全般や顧客の投資動向に変化はあるか。</p>	<p>LNG を含めたエネルギー需要は底堅く、顧客の投資動向には大きな変化はなく旺盛である。当社に対する顧客の期待も大きいと感じている。</p>
<p>今年度、当社が受注に注力している北米や東南アジアの LNG 案件の進捗状況を教えて欲しい。</p>	<p>現在、米国キャメロン LNG 増設、マレーシア・フローティング LNG の基本設計 (FEED) を遂行中である。加えて米国フリーポート LNG の入札も実施される見込みである。いずれも年度後半、どちらかと言えば第 4 四半期頃に投資決定、EPC コントラクターが決定していくことを期待している。</p>
<p>米国フリーポート LNG 輸出基地で火災があったが、増設計画への影響はどうか。</p>	<p>現時点で、火災によって顧客の投資計画が遅れるという情報は入っておらず、当初の計画の通り、今年度後半に顧客が投資決定していくことを期待している。</p>

今年度の受注目標に対して、第 1 四半期の受注進捗率は非常に高いが、今後の進捗見通しはどうか。	第 1 四半期は、前年度から期ズレした大型案件が受注でき、受注の進捗率に大きな貢献があった。今年度は、受注を期待している案件が四半期毎にコンスタントに獲得できると期待している。
今後、受注が期待できる案件を具体的に教えて欲しい。	海外の大型案件としては、米国および中東で計画が進むガス化学（エチレン）プロジェクト、タイの化学プロジェクト、米国およびマレーシアの LNG プロジェクトの受注を期待している。

以 上